

上砂川町

防災 ハザードマップ



●普段から目を通しておいてください。 ●保管して災害時に役立ててください。

災害用伝言サービス 安否情報などを家族や知人に知らせる方法を家族で確認しておきましょう

災害用伝言ダイヤル	171	大規模な災害が発生し、安否確認等の電話によって電話回線が混雑し、電話が繋がりにくくなる場合でも、伝言の録音・再生により被災地内の家族や親戚・知人等と連絡を可能にする「声の伝言」です。
○ 録音	171 → 1 → □□□□□□□□ → 伝言の録音	大規模な災害が発生した場合、携帯電話各社のホームページに災害用伝言板が追加され、自らの会員登録をすることが可能になります。ガスが復旧した際にガス爆発の危険があるため、ガスの元栓を閉めましょう。
○ 再生	171 → 2 → □□□□□□□□ → 伝言の再生	被災地の方の電話番号を市外局番から確認することができます。

※詳しくはNTTのホームページで確認してください。 ホームページ <https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/>

携帯電話災害用伝言板サービス
大規模な災害が発生した場合、携帯電話各社のホームページに災害用伝言板が追加され、自らの会員登録する事が可能になります。ガスが復旧した際にガス爆発の危険があるため、ガスの元栓を閉めましょう。

緊急ダイヤル 消防へ火事・救急・救助の連絡 119 警察へ事件・事故の連絡 110

発行 上砂川町
〒073-0292 空知郡上砂川町中央北1条5丁目1番7号
上砂川町ホームページ <https://town.kamisunagawa.hokkaido.jp/>

この事業は市町村振興宝くじ(通称:スマージャンボ宝くじ)の収益金を活用して実施しています。

はじめに

町民の皆様へ

地震や風水害、土砂災害などの自然災害は、私たち人々の力で食い止めることはできませんが、災害による被害は、日々の活動や備えによって減らすことができます。このため、市町村などによる防災・減災の取り組み(公助)はもちろんのこと、

●自分のことは自分で守る(自助)
●地域は地域の人たちで助け合う(共助)

これらが、災害による被害を少なにするための不可欠な取り組みです。上砂川町は、約90%が山林とともに緑豊かなまちですが、気象状況等自然の影響によって、土砂災害や浸水が起こりやすい警戒区域もあります。防災・減災のために、この防災ハザードマップを利用し、「災害を知ること」「まちを知ること」「危険な場所を知ること」が大切です。また、防災ハザードマップには、気象情報や防災情報、各種自然災害に備えた知識や行動、避難の心得など、防災・減災の全般にわたる情報や知識、災害に備えた行動をまとめています。

万が一の災害発生時に命を守る、地域を守るために迅速な行動と知識を身に付けるため、大いに活用いただくことを望んでいます。

地域の防災力を高める 自助・共助・公助

地震や洪水、台風等の自然災害による被害を最小限に抑えるためには、自分の命は自分で守る「自助」、地域で助け合う「共助」、行政の救援・支援「公助」の取り組みが必要です。

大規模災害では、公助の機能に限界がありますので、「自助・共助・公助」が連携することにより、住民と行政が一体となって地域防災力を高めることが重要となります。

いざという時に備え、適切な行動ができるよう日常的に防災を意識しましょう。

家族みんなで防災会議

災害は家族と一緒にいるときに起こることは限りません。いざというときに慌てず行動できるよう、本書を活用いただき、家族で普段から話し合っておきましょう。

家中で一番安全な場所
□ 家族一人ひとりの役割分担 ・安否確認、非常持出品・備蓄品のチェック、避難経路の確保、隣近所への連絡など
□ 避難場所、避難経路 ・自宅と避難場所を確認し、マップに描き入れましょう ・避難経路を歩いて確認しましょう
□ 自宅付近の災害リスク、危険箇所の確認
□ 災害が起った時の身のこなし方
□ 家族が離ればなれでいたときの連絡手段、集合場所
□ 配慮者(乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦など)のサポートと避難方法



わが家の「緊急・救急情報」防災メモ

非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたい、わが家の情報を。災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関などに情報を提供します。

家族の集合場所

集合場所	避難所・避難場所	連絡方法

家族の連絡先及び救急情報

氏名	続柄	電話番号 (自宅・携帯)	電話番号 (会社・学校)	生年月日	血液型	救急情報 (持病・アレルギー・常備薬)
					型	
					型	
					型	
					型	

親族・知人

氏名	間柄	電話番号

かかりつけ医療機関

医療機関名	電話番号

緊急ダイヤル 消防へ火事・救急・救助の連絡 119 警察へ事件・事故の連絡 110

避難の心得について

避難の心得10項目

避難の際に注意する10項目をまとめましたので、もしも災害が起きた時、慌てずに行動できるよう確認しておきましょう。

1 最新情報入手

ラジオ・テレビから最新の気象・災害情報を入手し、危険を感じたら避難準備をしましょう。

2 呼びかけに注意

町役場、消防署、警察署からの避難の呼びかけに注意しましょう。

最近全国各地において頻繁に見られる局地的集中豪雨のように、突然的な異常気象の場合には、町からの避難情報を間に合わないケースもあります。その際には、身の危険を感じたら安全な場所にいる家族や知人の家、町が開設した避難所などへ自主的に避難しましょう。

命を守る最低限の方法とは

危険な状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。

危険に直している場合は、指定された避難場所への移動(①水平避難)だけでなく、命を守る最低限の行動(②垂直避難)が必要な場合もあります。

例えば、

●夜間や激しい降雨で避難路上の危険がわかりにくい。

●ひざまで浸水している(50センチ以上)。

●浸水は20センチ程度だが、水の流れの速度が速い。

●浸水は10センチ程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある。

●垂直避難:上記の場合、屋外への移動は危険です。浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討しましょう。

5 連絡・メモを残す

安否情報、連絡先などのメモを残します。電話の混線が想定されるので、SNSなどを利用するのも良いでしょう。

7 助け合って避難を

子どもや高齢者、病気の人などは避難に時間がかかるので、早めに避難させましょう。また、近くの人の場合も積極的に協力しましょう。

9 避難は徒歩で

車での避難は、緊急車両通行の妨げや交通渋滞を招くほか、浸水により動けなくなることもあります。

特別な事情がない限り、徒步で避難しましょう。

10 避難に遅れたら…

万一、避難に遅れ危険が迫ったときには、近くの丈夫な建物のできるだけ高いところに逃げましょう。

8 安全な避難

浸水があった場合は、溝や水路に十分注意しましょう。また、けが地などでは、土砂災害のおそれがあるので注意しましょう。

11 避難は徒歩で

車での避難は、緊急車両通行の妨げや交通渋滞を招くほか、浸水により動けなくなることもあります。

特別な事情がない限り、徒步で避難しましょう。

12 地震対策について

土砂災害について

土砂災害の種類

がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。

がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遡れる人が多く、被害者の割合も高くなっています。

土石流

山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されます。

その流れの速さによって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆくつと斜面下方に移動する現象のことです。一般的に運動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止することは非常に困難です。

地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆくつと斜面下方に移動する現象のことです。一般的に運動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止することは非常に困難です。

2 地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

地震だ!まず身の安全

大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、姿勢を低く、頭を守り、搖れがおさまるまで待ちましょう。

2~5分

大搖れがおさまった

台所やストーブなどの火の始末をします。避難の時は、電気のブレーカーを下ろし、ガスの栓を開めましょう。

5~10分

火の始末のあと

家族の身の安全を確認し、確保します。

また、避難可能な場合も確認します。

10分~半日